

# CSTIにおけるメタ評価（評価の有効性の評価）の 実施に向けた検討

---


令和2年10月23日  
事務局

# メタ評価（評価の有効性の評価）に関する検討の経過

## 第131回評価専門調査会（令和元年7月29日）

◇「CSTIが実施する中間評価の調査検討等の進め方」及び「CSTIが実施する事後評価の調査検討等の進め方」について、現状の評価の実態等を踏まえ、見直しを実施

⇒新たな視点からのCSTI評価の必要性や「各省が実施している評価そのものを評価することがCSTIが実施すべき評価ではないか」との意見を踏まえ、「各省の行っている評価方法」を調査検討事項に追加



◇研究開発評価における成果を科学技術・イノベーション政策の改善等に最大限活かしていくことを目的にWGを設置し「研究開発評価の充実に向けた検討」を実施(R1/10/29～R2/7/29)

## 第136回評価専門調査会（令和2年7月29日）

※CSTIが実施すべき評価について、以下のとおりまとめ

《CSTIが実施すべき評価の意義・ねらい》

◇CSTIは科学技術・イノベーション政策に関する政府全体の司令塔として、我が国の科学技術・イノベーション政策・施策が科学技術基本計画等に沿って目標とした成果が得られているか、CSTIにおいて評価することを通じて、研究開発の成果が最大になるように導き、国全体の科学技術の発展やイノベーションの創出、政策・施策の改善、適切な予算配分等による効果的な政策・施策等の実施に役立てる

《CSTIが実施すべき評価業務》

①政府全体で進めている施策についての科学技術・イノベーション政策（科学技術基本計画等）推進等の政府全体の観点からの総合的な評価およびモニタリング

②府省等が自らの政策実現に向けた成果等を生み出すような評価を実施するための方針の提示および俯瞰的な評価  
（メタ評価）

\* 国の研究開発評価に関する大綱的指針



○メタ評価の実施に向けた検討を行っていく必要

# CSTIが実施すべき評価業務における視点（案）

【CSTIにおける評価の目的】：我が国の科学技術・イノベーション政策・施策が科学技術基本計画等に沿って目標とした成果が得られているか、CSTIにおいて評価

科学技術基本計画に関して別途検討中の状況について、本日紹介（資料2）

CSTIが実施すべき評価業務	主旨	CSTIにおいて実施すべき評価の視点
① 施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>俯瞰的な立ち位置からの総合的な評価により、国全体の科学技術・イノベーション政策・施策（計画策定、制度設計、政策誘導等）の適時の改善に役立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画等の進捗を促すため、項目ごと（例えばAI研究開発、地球温暖化対策など）に、<b>各省庁が実施中の様々な研究開発等について、横串して評価・モニタリング</b></li> <li>プログラムを中心に評価</li> <li>各省庁の連携等を誘導する</li> </ul>
② 評価の仕組みの充実（メタ評価）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各府省等における評価の充実を図る</li> <li>政策・施策改善に関する各府省等におけるPDCAの取り組みを誘導する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各省における評価の取り組みを対象として、<b>メタ評価（評価の有効性の評価）</b>を実施</li> <li>あらかじめCSTIが提示している評価を実施するための方針（国の研究開発評価に関する大綱的指針）に沿って、有効な評価が行われているか</li> </ul>

本日、具体的な検討を行う対象

【評価結果の活用】：研究開発の成果が最大になるように導き、国全体の科学技術の発展やイノベーションの創出、政策・施策の改善、適切な予算配分等による効果的な政策・施策等の実施に役立てる

# CSTIが実施するメタ評価として考えられる方法

## 【案a】

○各府省における研究開発評価の取り組み全体の状況について評価（マクロの視点）  
⇒イメージ(P.5)

## 【案b】

○各府省における研究開発評価のそれぞれ個別の評価状況について評価（ミクロの視点）  
⇒イメージ(P.6)

## 【案c】

○各府省における事後評価・追跡評価の評価状況を中心に評価  
⇒イメージ(P.7)



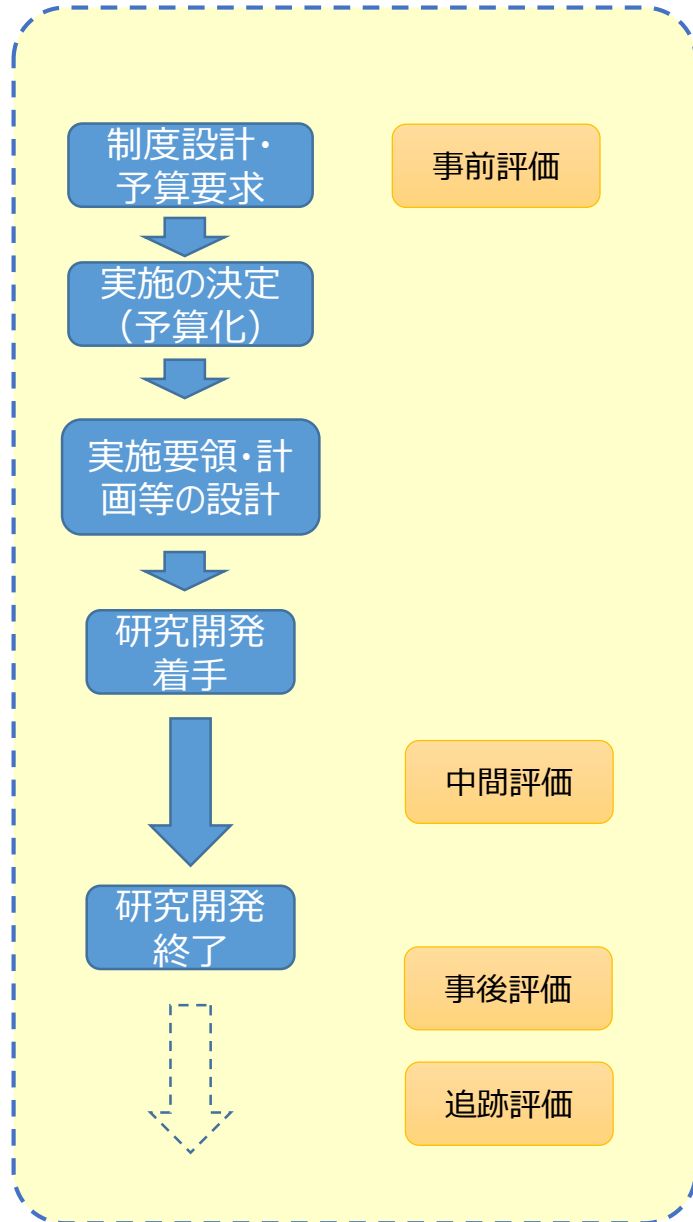
○メタ評価（評価の有効性の評価）として特に着目する内容

→ 評価結果の活用

- ・評価結果を十分に活用し、PDCAサイクルの確立を進めているか  
（推進プロセスの改善、今後実施する施策の制度設計等）
- ・評価手法等の分析を行い、評価制度の充実化を図っているか  
（評価基準や評価指標等の評価制度自体の改善等）
- ・評価結果を公表しているか  
（公的資金の投資に関する国民への説明責任を果たすための説明手段の一つ）

# CSTIが実施するメタ評価（案aのイメージ）

## 【研究開発実施と評価のプロセス（例）】



## 【メタ評価の主な視点（例）】

※各府省における評価の取り組み全体について、以下の観点から評価

### ○評価結果を基にPDCAサイクルを回せているか？

- ・評価結果の活用／反映
- ・事前、中間、事後、追跡のすべての評価を連動させ、プログラムの推進プロセスの改善、プログラムの改善、次の政策立案への反映等されているか

### ○どのようなタイミングで評価を実施し、活用しているか？

- ・事前に評価を行い、予算等に反映しているか？
- ・中間に評価を行い、推進プロセスの改善に反映しているか？
- ・事後に評価を行い、次の政策・施策等の改善に反映しているか？
- ・必要に応じ追跡評価を行い、次の政策・施策等の改善に反映しているか？

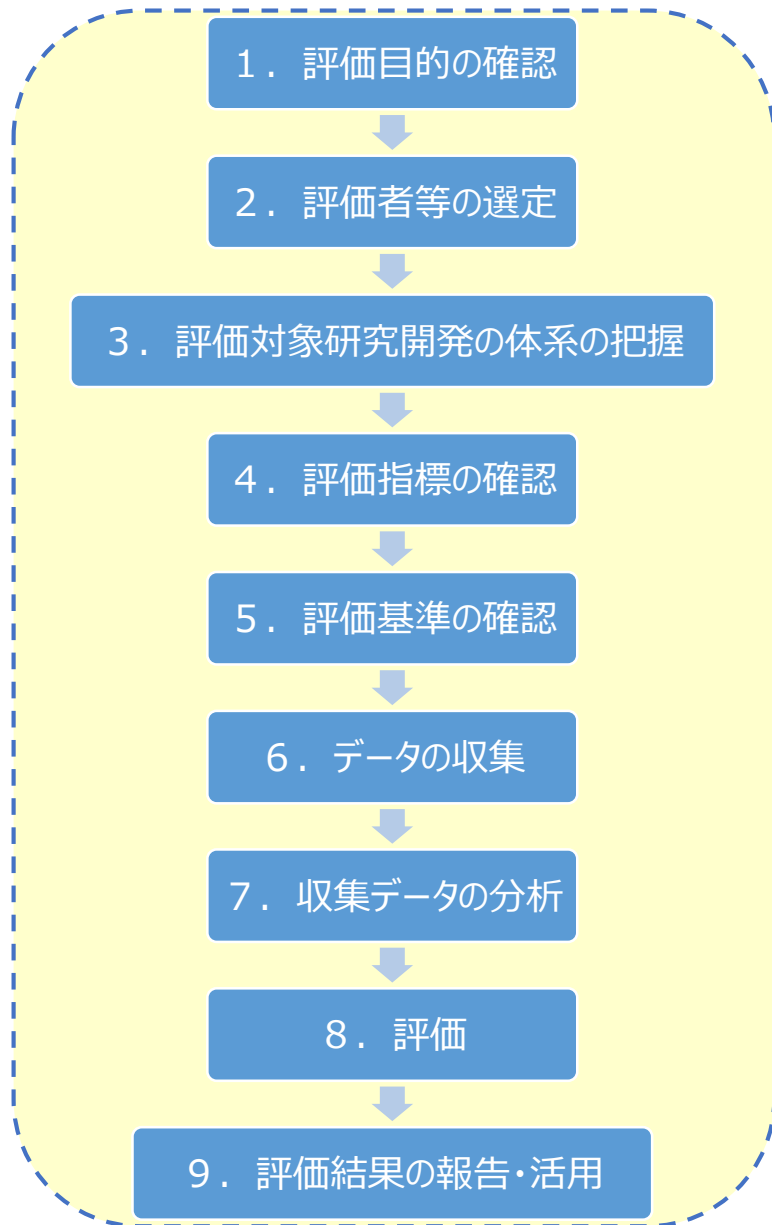
### ○評価結果は適切に公表しているか？

（公的資金の投資に関する国民への説明責任を果たすための説明手段の一つ）

※評価基準・評価要領等については、各府省において既に定められている

# CSTIが実施するメタ評価（案bのイメージ）

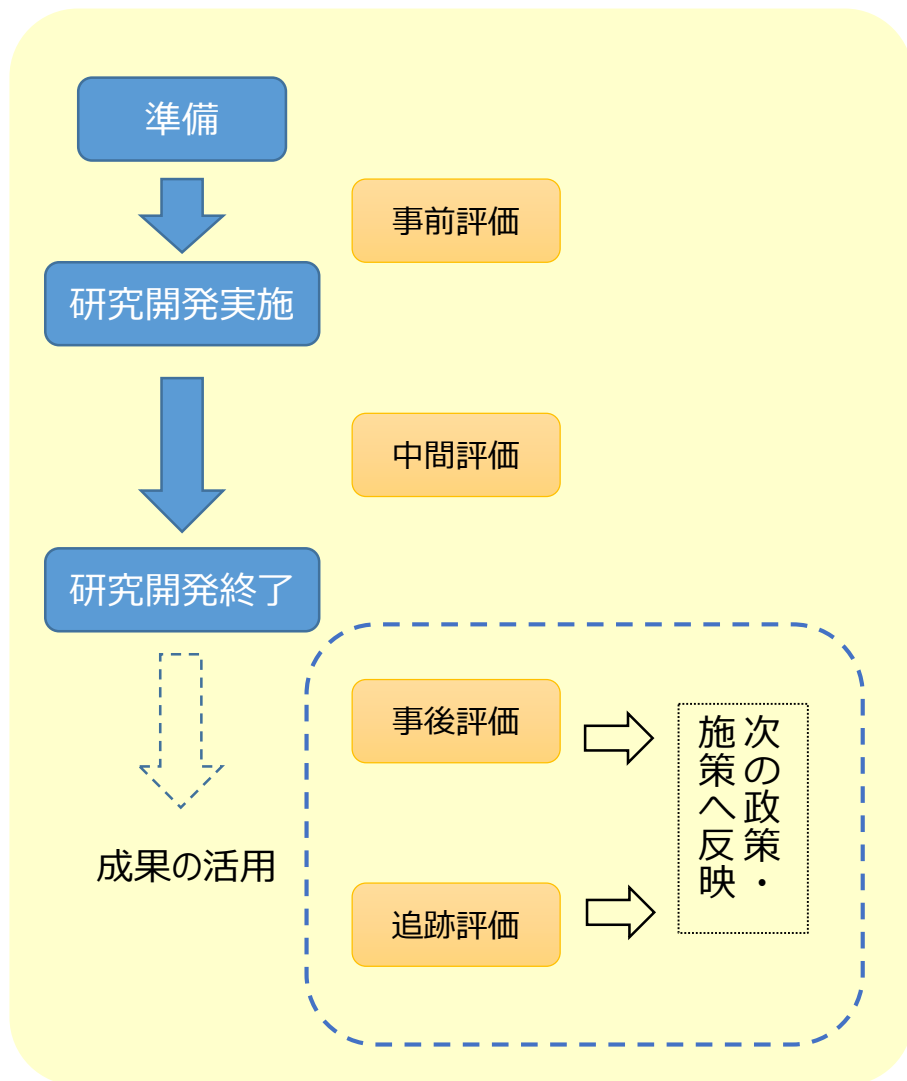
## 【評価のプロセス（例）】



## 【メタ評価の主な視点（例）】（※詳細は、参考資料）

- 評価目的が明確かつ具体的に設定されているか？
- 評価者のバランス、利害関係者が排除されているか？  
選定基準は設定されているか？
- ロジックモデルが組み立てられているか？
- 評価指標は設定されているか？
- 評価基準はあらかじめ設定されているか？
- 客観的なデータが十分に収集されているか？
- 偏りなどなくデータの分析が行われているか？
- 評価目的や研究開発の性格に応じ評価されているか？
- 評価結果を当初目的に沿って活用しているか？  
特に、推進プロセスの改善や次の施策・制度検討に活用されているか？

## 【研究開発実施と評価のイメージ】



## 【メタ評価の主な視点（例）】

※各府省における評価の取り組みのうち、特に、次の政策・施策等への反映が期待される事後評価及び追跡評価に着目し、その活用を評価

○評価結果を今後実施する政策・施策等の企画や制度設計等に活用するなど、研究開発全体としてのPDCAサイクルを回しているかを評価

○仮に活用されていないのであれば、その原因について分析し、活用に向けた方策を検討し、各府省に提言

○研究開発によって導かれた成果について、事後評価及び追跡評価により明らかし、公的資金の投資に関する説明責任を果たすための説明手段の一つとして、活用しているかを評価

# 評価する量、期間等に関する整理

※評価の手法をどのように選択するかにより、様々な評価の量となり得ること

## (1) 評価の対象

### タイプ1-1

その府省のすべての評価（個別ではなく全体像のみに着目）

### タイプ1-2

その府省のすべての評価（個別の評価に着目）

### タイプ2

その府省の評価の一部（抽出して）

## (2) 評価にかける期間

### タイプあ 1年間

（専門調査会4～5回）

### タイプい 半年間

（専門調査会2～3回）

## (3) 実施スパン

### タイプイ

毎年度（8省庁／年）

### タイプロ

2～3年おき（2～4省庁／年）

### タイプハ

5年おき（1～2省庁／年）

### タイプニ

2～3年おきに全府省を一斉実施

- ✓ 個別評価の単位として、プログラム、プロジェクトの扱いは別途検討の必要

《参考：研究開発評価の件数（令和2年6月調査）》

	事前評価	中間評価	事後評価	追跡評価	合計
H30年度	1,400	2,276	1,051	91	4,818
R1年度※	1,280	1,919	986	106	4,291

※R1年度には、新型コロナウイルスの影響で、厚生労働省の一部の評価件数が含まれていない



## 本日、ご審議いただきたい事項

- 各省庁が実施している評価に対して、CSTIが実施すべきメタ評価（評価の有効性の評価）としては、どのような形態が望ましいか。
- CSTIにてメタ評価を実施するにあたっての視点は、記述の内容で適当か。不足している視点等はないか。

## 〈今後の検討〉

- 本日のご審議を踏まえてさらに整理を行い、CSTIにおけるメタ評価の実施に向け、検討を進める。
- さらに、その次のステップとして、具体事例を重ねつつ、評価の方法について、継続的な改善を図っていく。

# 《参考》 CSTIが実施するメタ評価（案b詳細1/2）

評価のプロセス	事前メタ評価の主な視点	中間メタ評価の主な視点	事後メタ評価の主な視点	追跡メタ評価の主な視点
1. 評価目的の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前評価の目的（実施の必要性、目標や計画の妥当性等を把握）を達成できる評価となっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価の目的（中間評価時における目標等の達成状況を把握し、計画変更の要否等を確認）を達成できる評価となっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後評価の目的（終了時における目標等の達成状況を把握し、今後を活用）を達成できる評価となっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>追跡評価の目的（長期的インパクトを把握し、評価の目的に活用）を達成できる評価となっているか</li> <li>何を目的とした評価なのかを明確にしているか</li> </ul>
2. 評価者等の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価者の能力や評価対象研究開発に対する理解は適切か</li> <li>評価者の構成（分野）等は適切か</li> <li>外部評価又は第三者評価か</li> <li>評価者の選定基準は設定されているか</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)
3. 評価対象研究開発の体系の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発の背景、内容に対する理解は十分か</li> <li>政策目標の達成までの道筋（シナリオ、ストーリー、ロジックモデル）が論理的に組み立てられているか</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)
4. 評価指標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>各省自らの政策実現に向けた成果等を生み出すような指標となっているか</li> <li>定量的な評価指標だけでなく、定性的な評価指標も設定されているか</li> <li>研究開発成果だけでなく、実施プロセスの妥当性等についても指標としているか</li> <li>指標を判断するデータソースを明確にしているか</li> </ul>	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する政策・施策等の改善を目的とした場合、改善点を明確にした上での評価指標となっているか</li> </ul>
5. 評価基準の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>成功状態が定義されているか、適正な基準か</li> </ul>	-	-	-
6. データの収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集したデータは十分か、偏りはないか、客観性は確保されているか</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標に対応したデータ収集となっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標に対応したデータ収集となっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価指標に対応したデータ収集となっているか</li> </ul>
7. 収集データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの分析は適切か</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)

# 《参考》 CSTIが実施するメタ評価（案b詳細2/2）

評価のプロセス	事前メタ評価の主な視点	中間メタ評価の主な視点	事後メタ評価の主な視点	追跡メタ評価の主な視点
8. 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の特性に応じた評価（評価目的や研究開発の性格（基礎・応用・開発等）に応じた評価をしているか。必要に応じ国際水準と比較した優位性・競争力を評価しているか）</li> <li>・必要性の観点からの評価（科学技術的意義、社会経済的意義、目的の妥当性等の観点から評価しているか）</li> <li>・効率性の観点からの評価（計画や実施体制の妥当性、予算の適切性、費用対効果等の観点から評価しているか）</li> <li>・有効性の観点からの評価（目標の達成度、科学技術・社会経済への貢献、人材養成等の観点から評価しているか）</li> <li>・評価の判断根拠は適切か（何を持って「適切」や「達成」と判断したか）</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の達成状況・達成見込みの判断は適切か</li> <li>・事前評価時の指摘事項等への対応について評価しているか</li> <li>・次の研究開発の改善等へつなげるために、成否の要因を明らかにするよう評価しているか</li> <li>・中間評価時における情勢変化等を考慮し評価しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の達成状況の判断は適切か</li> <li>・これまでの指摘事項等への対応について評価しているか</li> <li>・次の研究開発の改善等へつなげるために、成否の要因を明らかにするよう評価しているか</li> <li>・事後評価時における情勢変化等を考慮し評価しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の研究開発の改善等へつなげるために、成否の要因を明らかにするよう評価しているか</li> <li>・追跡評価時における情勢変化等を考慮し評価しているか</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにマネジメントを行おうとしているか、それは過去の経験等を踏まえて適切に検討された上で計画されているかについて確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントの状況をどのように把握し評価しているかについて確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントの状況をどのように把握し評価しているかについて確認</li> </ul>	-
	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追跡評価の必要性の有無について、適切に判断しているか</li> </ul>	-
9. 評価結果の報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果を誰にどのような手段で開示しているか（する予定か）</li> <li>・評価結果を公表しているか（する予定か）</li> <li>・その結果をどのように活用しているか（する予定か）</li> </ul>	(同左)	(同左)	(同左)